



馬の学校

# 馬の学校通信

2009. 9 vol.35

発行 馬の学校

事務局 〒409-0115 山梨県上野原市松留 645 ハイム上野原 206 TEL/FAX:0554-63-5534

E-mail : mine@horseschol.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



## 秋のプログラム 参加者募集！！

### ファミリープログラム (日帰り)

日程：10月24日(土) 午前10時半～午後4時 \*小雨決行  
場所：ホーストレッキングわち(京都府船井郡京丹波町出野小字カシロ)  
対象：幼・小・中・高校生のお子さんとそのご家族(定員3家族)  
参加費：1家族 ¥15,000/1回(現地集合・解散)  
別途 食費 1人 ¥500

### 馬とのふれあいプログラム (約2時間)

日程：10月25日(日) / 11月15日(日) / 12月12日(土)  
午前 10～12時 \*雨天決行  
場所：服部緑地乗馬センター(豊中市服部緑地1-5)  
対象：小・中・高校生(定員4名) \*原則として保護者同伴  
参加費：1人 ¥8,000/1回(現地集合・解散)  
\*ふれあいプログラムはボランティアがマンツーマンでサポートします  
★お申し込みは、会員の皆さまは9月21日(月)から、一般の方は24日(木)から、電話・メール・FAXにて事務局まで。  
\*留守番電話になっている場合は、お名前・ご希望のプログラム名をお伝えください。折り返し、こちらからご連絡いたします。  
\*服部緑地でのふれあいプログラムにつきましては、多くの方に参加いただけるよう、お1人様1回のお申し込みをお願いいたします。  
9月27日以降、空きがありましたら、2回以上の参加も受け付けさせていただきます。

馬の学校も  
ポスター発表する  
予定です！

## 夏のプログラム 活動報告

### ウマキャンプ (8/18～21)



朝早くからのブラシがけ



馬小屋の掃除もしっかりと



フリーに挑戦



馬の背中に立てました！



重いバケツは協力して



みんなで記念撮影です

## お知らせ(1)

### 「ポニーと子ども」全国フォーラム

日程：2009年11月16日(月)  
場所：オリンピック記念青少年総合センター(東京)  
テーマ：ポニーが子どもにもたらす教育的効果の  
検証/ポニーのケア  
詳しくはハーモニーセンターのHPをご覧ください  
<http://www.pony-harmony.com/index.htm>



## 馬の写真館



いーいーいー  
かわいい  
でしょ？

## お知らせ(2)

### 「治療的乗馬」研究集会2009(第5回)

日程：2009年11月7日(土)・8日(日)

場所：オリンピック記念青少年総合センター(東京)

テーマ：馬という特別なパートナー

その意味を知る

内容：実践および研究報告と協議・記念公演

詳しくは日本治療的乗馬協会HPをご覧ください

<http://www.jtranet.jp/>

## ウエスタン競技 その2 (レイニング)

日本で一番有名なウエスタン馬術の競技はおそらくこのレイニングでしょう。この競技はすべて駈歩で、片手だけで手綱を持って行われます。速く大きな輪を描く駈歩、ゆっくり小さな輪を描く駈歩、その場でくるくる回る高速スピンなどを組み合わせたパターンが決められていて、みんな同じ演技をして内容の良し悪しを点数で競います。技の中でもっとも観客を興奮させるのが「スライディングストップ」です。これは最速のスピードで走ってきた馬を、急ブレーキをかけたように止まらせる技で、砂煙が立ちこめる様子は迫力満点です。これらすべての動きは牧場で逃げるウシを捕まえるための技から生まれたものです。



(幸田郁代)

## 編集後記

9月に入り、朝夕はすいぶん涼ぎやすくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。この夏は2004年春のウマキャンプで埋めた「タイムカプセル」を8月2日に開封しました。当時の参加者7名のうち4名とボランティアが集まり、懐かしい話で盛り上がりました。小学生や中学生だった子どもたちが、高校生、大学生、専門学校生になり、それぞれの道に進んでおり、とても頼もしく感じました。また8月中旬のウマキャンプでもタイムカプセルを作成し、みんなで埋めました。5年後、みんなどんな成長をしているのか、この夏の出来事がどのような思い出として残っているのか、今から楽しみです。

5年という歳月はあっという間のように、私にとっても結婚、新たな就職などいろいろな変化がありました。何よりも馬の学校での多くの人との出会いは大切な宝物となっています。これからも一歩一歩の歩みと一人一人との出逢いを大切に、進んでいきたいと思えます。

(峯崎 友香理)